

父と母 画家 谷脇 哲也



この写真は、昨年の2月に亡くなった父の遺品整理をしているときに見つけたものだ。父と母は、近くの公園まで散歩でもしていたのだろうか。それとも、母が鞄を抱えているところを見ると、買い物の帰りか？そして、この写真を写したのはひょっとして私だろうか？

(関連記事:あすかブログ2020年6月22日「プロ野球が開幕しましたね。」)

そんな疑問よりも、この写真を見てまず目に飛び込んできたのは、写真の右下に印字された「'02.2.24」の文字だった。なぜなら、そのちょうど18年後である2020年2月24日は、偶然にも父の葬儀の日だったからだ。父をおくったその日、母は、父の棺のそばに座り、私の妻がいれたお茶をすすりながら、「こうして、お父さんの好きだったお茶を飲んでいると、楽しかった頃のことを思い出すよ。」と言っていたつけ。今思うと、あのときの母の目にはこの写真の日のような情景が浮かんでいたのかもしれない。

3年ほど前、母が軽い脳梗塞で倒れてからは、

父が一人で母の面倒をみていた。

父が他界した今、どうしたら、写真に写る母のあの笑顔を取り戻せるのだろうか。

「そう気負うなよ。」と隣に写る父が笑っている。

